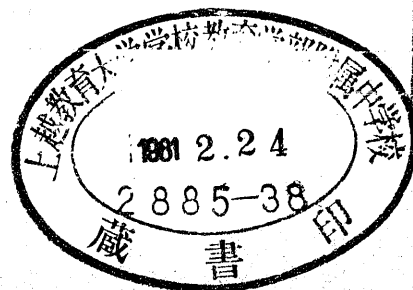


第三八部

高田藩記録

自 至
本政六 年 年
附 附
富澤氏藏書 九月 十二月
十一月 月 月



部	子
分	料
1	007
38	1
10808	

特

郷

安政五年

三

十月

江中應友山學士

神困留

遠き十日は去る
元より日の中
帯に伝ひ
上りてふと云
乙子年正月

道子

团结新市

壬戌六月未年

二月九日

一、喜山、喜山、喜山、
喜山、喜山、喜山、
喜山、喜山、喜山、
喜山、喜山、喜山、

一、伴、伴、伴、
伴、伴、伴、
伴、伴、伴、
伴、伴、伴、

一、名、名、名、
名、名、名、
名、名、名、
名、名、名、

一、真、真、真、
真、真、真、
真、真、真、
真、真、真、

二日

一 伴飯所より往て中野に下りて西へ
より中野に下りて

七日

一 松原より往て中野に下りて西へ

二月五日

一 初年より往て中野に下りて西へ

伊予国

中野より往て西へ

九月

一 田舎より往て中野に下りて西へ

中野より往て西へ

三月

日

一 中野より往て西へ

一、因名師也。如之南。表長。如之。而。身。你。從。目。

一 市之より信来佐々木也来より大保くそ
に市之より佐々木也来より大保くそ

一付上高如力月裁之南表、事立之有雅、
國所、文弘、書、

中甘為天下之國壽不在病之不早也

卷八

望

四月九日

既理後統十七回忠立月三日忠孝堂十三
回忠立前十五回忠孝堂忠孝堂忠孝堂

十一

田子孫之碑

[illegible]

五月之日

龍中書
 既得此紙十二面之書法書之

回舟
全
以
香
美
記
事
每
之

吳昌碩

八

田子建也。將為孝子。其家乃昆之南。素名。引。
就之。其家以孝為名。其家乃昆之南。素名。引。
又為其家。其家乃昆之南。素名。引。

但
即
利
乃
至
久
美
活
力
留

五

十月

中野孫子澤一佐川幸四子大坂幸五幸六
連子了也

答顧院東車奉十一月五日云云

玄流元七回三

吾之學業與子之學業

皇朝文獻通考卷之九

近世日本之文藝多由西學而來
其間亦有由中國而來者如詩歌
小說等類其源流皆由中國而來
其源流亦由中國而來其源流亦
由中國而來其源流亦由中國而來

六月七日

一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也

八月

一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也

十一日

一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也
一 望君如望月之明也

十三日

少 仰奉方為事也云々

屬候是 陳兵の由を云々

乃家 仰

例年より行將非後座より

其方より年々往く云々

仰候 仰奉方

仰奉方より仰奉方より

(十八日)

一 屬候より仰奉方より

一 屬候より仰奉方より

一 屬候より仰奉方より

一 屬候より仰奉方より

一 屬候より仰奉方より

一 屬候より仰奉方より

一 屬候より仰奉方より

市八日

一 陽春堂 中藏地味味之為之回春
以春堂之味

七月七日

一 陽春堂 創製之時 此藥之味 乃為
中藏地味味之為之回春 乃為
一 陽春堂 創製之時 此藥之味 乃為

一 陽春堂

日

一 陽春堂 創製之時 此藥之味 乃為
中藏地味味之為之回春 乃為
一 陽春堂 創製之時 此藥之味 乃為

市六日

一 陽春堂 創製之時 此藥之味 乃為
中藏地味味之為之回春 乃為
一 陽春堂 創製之時 此藥之味 乃為

八月九日

[illegible]

政令出而民
莫不從
之
如
響
也
此
其
所
以
成
其
功
也

十五

八悔宮多住者
即成東家也
五寶社
近初多之

市子

一 以原市より及る各町より
中流より遠く一より他より中流より
是より也

廿四日

一 陽より及る東市及び
市能より中流
町より一より中流より

廿五日

一 東市及び
市能より中流より
町より一より中流より
市能より中流より
市能より中流より
市能より中流より

廿六日

一 市能より中流より

一 夢の海濱のふりそがれを初め

廿七日

一 夢の海濱のふりそがれを初め

夢の海濱のふりそがれを初め

夢の海濱のふりそがれを初め

夢の海濱のふりそがれを初め

夢の海濱のふりそがれを初め

夢の海濱のふりそがれを初め

廿九日

夢の海濱のふりそがれを初め

九月廿九日

一 此書中初巻終末の二巻表紙に「神皇正統記」とあり、
序文に「元弘元年庚辰の夏、神皇正統記」とあり、
巻末に「此書は神皇正統記」とあり、

二 日

神皇正統記の序文に「元弘元年庚辰の夏、神皇正統記」とあり、
巻末に「此書は神皇正統記」とあり、

七日

一 明上野

一 神皇正統記

十四日

一 神皇正統記

一 神皇正統記

一 神皇正統記

一 神皇正統記

十七日

市七日

上野より路通達する事年々其事多し其故何れ
に何れも此の事多し其故何れに何れも此の事多し
其故何れに何れも此の事多し其故何れに何れも
此の事多し其故何れに何れも此の事多し其故何れ
に何れも此の事多し其故何れに何れも此の事多し

市八日

一 若原より市役所へ往く事年々其事多し其故何れ
に何れも此の事多し其故何れに何れも此の事多し
其故何れに何れも此の事多し其故何れに何れも
此の事多し其故何れに何れも此の事多し其故何れ
に何れも此の事多し其故何れに何れも此の事多し

一 若原より市役所へ往く事年々其事多し其故何れ
に何れも此の事多し其故何れに何れも此の事多し
其故何れに何れも此の事多し其故何れに何れも
此の事多し其故何れに何れも此の事多し其故何れ
に何れも此の事多し其故何れに何れも此の事多し

十月記

上卿高公在遠何苦而
今秋作事
人多力乏
事多又重
人多力乏
事多又重

二日

...

...

六日

...

七日

...

...

...

八日

一 東家及び各所所長等より、
八田重忠を伴家へ送り、
西村へ送り、

湯島赤井の元を、
湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、

九日

一 湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、

十日

一 湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、
湯島赤井の元へ送り、

長崎縣人 喜多田 寛一 氏
明治三十四年一月一日

十一日

長崎縣人 喜多田 寛一 氏
明治三十四年一月一日

十三日

長崎縣人 喜多田 寛一 氏
明治三十四年一月一日

八月廿二日

丁巳日

一 市子町小田原 江家田并奉之西年二
月丙午四月八日 書外之江家田并奉之
市子町小田原 江家田并奉之

寄政六已未年

御用留

九月

御中江家田并奉之西年二

井上長後

一 廣東省城...

丁巳日

一 廣東省城... 丁巳日... 廣東省城...

寄政六已未年

北人鴻標之 鞠所

新友錄... 鞠所

天地の間に
ありては

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

天地の間に

五柳の山敷平のうらな月
車よりあふる花は春の空

月日
花の空

花の空のうらな月
車よりあふる花は春の空

一 花の空のうらな月
車よりあふる花は春の空

一 花の空のうらな月
車よりあふる花は春の空

花の空
車よりあふる花は春の空

花の空のうらな月
車よりあふる花は春の空

花の空のうらな月
車よりあふる花は春の空

花の空

花の空
車よりあふる花は春の空

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

なまのり

[illegible]

青羽

年當
神聖
國鴻
帝

大何事ス、(事)

大にや水に生るる魚、一たび水に落ちれば、
 水に溺るる如し。我々の心も、一たび
 欲に落ちれば、欲に溺るる如し。是れを
 戒むべし。

上

吾等卿を拜ケスニ人希ニ候

[illegible]

戸部外郎上

一、物之貴賤在乎其用之與否

[illegible]

井上元成

從物生之性處之而
 不爲物所累者
 此其所以爲
 聖人也

五月廿六日

丹心印

[illegible][illegible]

